



拡大するシュルレアリズム 視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ

会期	2026年4月16日[木] – 6月24日[水]
会場	東京オペラシティ アートギャラリー(ギャラリー1、2)
開館時間	11:00–19:00 (入場は18:30まで)
休館日	月曜日 (ただし5月4日は開館)、5月7日[木]
入場料	一般 1800 [1600] 円／大・高生 1100 [900] 円／中学生以下無料 * 同時開催「幻想の景色と不思議ないきものたち」収蔵品展086 寺田コレクションより、「project N 102 大上巧真」の入場料を含みます。 * [] 内は各種割引料金。 * 障害者手帳、指定難病受給者証等をお持ちの方および付添1名は無料。 * 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。
主催	公益財団法人 東京オペラシティ文化財団
協賛	NTT都市開発リート投資法人
企画協力	株式会社キュレイターズ
特別協力	横浜美術館

お問合せ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

本展覧会に関するお問合せ
東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】瀧上華 【広報】市川靖子、吉田明子
Tel: 03-5353-0756 Email: ag-press@toccf.com

日常を変える、世界を変える。

シュルレアリスム（超現実主義）とは、理性によって分断された世界を乗り越え、新しい現実を求めるようとする芸術運動です。1924年にアンドレ・ブルトンが定義づけ、無意識や夢に着目したフロイトの精神分析学に影響を受けた文学運動として発生しました。

どこか違和感がある風景や夢の中のような幻想的雰囲気など、シュルレアリスムの表現に一定の傾向を見出すことも可能ですが、シュルレアリスムとは表現の様式をいうものではなく、世界の変革をめざすことを共通の精神とした、あらゆる創造行為をさしています。

そして、「日常を変える」と「世界を変える」ことをひと続きに捉えていたシュルレアリスムは、芸術の内部にとどまることなく、雑誌や広告、ファッション、室内デザインといった日常に密接した場面にも広がっていき、社会全体に影響をもたらしました。

シュルレアリスムが提示した新たな視覚表現とその広範な影響は、誕生から約100年を経た現代においてもなお新鮮な驚きとともに受けとめられています。本展覧会は国内に所蔵されている多様なジャンルの優品を一堂に集め、社会全体へと拡大した新しいシュルレアリスム像を示します。



1. ルネ・マグリット 《レディ・メイドの花束》 1957 大阪中之島美術館

「拡大するシュルレアリスム」のみどころ

1. 芸術界にとどまらないシュルレアリスム！

オブジェ、絵画、写真などの芸術分野ではもちろん、広告やファッション、インテリアなど日常にも拡大していったシュルレアリスム。

それぞれ1章ずつ、全6章の構成により、これまで本格的に検証される機会の少なかった視覚芸術以外の分野をあわせて検証することでシュルレアリスムの発展、変遷をたどります。

2. シュルレアリスムの名品が大集結！

サルバドール・ダリ、マックス・エルンスト、ルネ・マグリットをはじめとするシュルレアリスムを代表する作家たち。本展覧会には、シュルレアリスムの名品が大集結します。

なかでも特筆すべきは、ルネ・マグリットの代表的なモチーフである山高帽の男が描かれた《王様の美術館》(横浜美術館所蔵)と《レディ・メイドの花束》(大阪中之島美術館所蔵)です。ふたりの山高帽の男が展示室を彩ります。

大阪会場での展示から一部作品や資料を追加・変更し、さらに充実した展示をお楽しみいただけます。



2. ルネ・マグリット 《王様の美術館》 1966 横浜美術館

3. ファッションとシュルレアリスム

シュルレアリストたちとの交流が深かったデザイナー、エルザ・スキヤパレッリ。彼女の代名詞ともいえるショッキング・ピンクのドレス(イヴニング・ドレス「サーカス・コレクション」、島根県立石見美術館所蔵)をはじめ、独自のデザインが施された香水瓶やジュエリーなど、多岐にわたるスキヤパレッリ作品が集結します。



3. エルザ・スキヤパレッリ
イヴニング・ドレス「サーカス・コレクション」
1938
島根県立石見美術館

※前期展示

「拡大するシュルレアリズム」展示構成

第1章 オブジェー「客観」と「超現実」の関係

シュルレアリズム。それは私たちが疑う余地なく現実だと認識しているものの中から、より上位の現実である「超現実」を露呈させることです。

客体(=objet[仏]/オブジェ)として事象をみつめることで「超現実」と向き合ったシュルレアリストたちのオブジェにより、シュルレアリズムの扉を開きます。



4. フランシス・ピカビア 《黄あげは》
1926 大阪中之島美術館

第2章 写真—変容するイメージ

19世紀前半に誕生した写真術は、被写体をそのまま写すという本来の役割を超えて、20世紀美術を彩る主要な表現のひとつになります。

外界の事物をオブジェとして写し取る写真術の領域において、シュルレアリズムがめざした想像力の多様な広がりは豊かに開花しました。

シュルレアリストはさまざまな実験的技法を駆使して、日常的なモチーフを斬新で謎めいたイメージへと変えていきます。

マン・レイを筆頭に、シュルレアリストらの多彩な写真表現を紹介します。



5. ヴォルス 《美しい肉片》 1939 個人蔵

第3章 絵画—視覚芸術の新たな扉

多様な領域にわたるシュルレアリズムの芸術運動において、絵画は最も親しまれている表現形式といえます。

理性のコントロールから逃れようとする「オートマティズム」(自動筆記)や、関係のない物同士を脈絡なく並置して違和感や驚きを引き起こすデペイズマンといった手法を取り入れ様々な表現が生まれました。

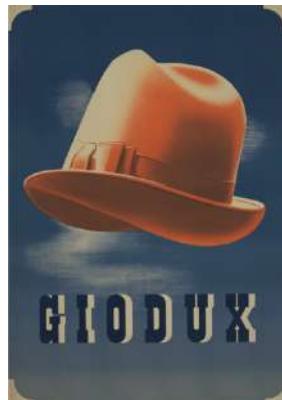
また夢の中を思わせる幻想的雰囲気もシュルレアリズム絵画の特徴といえるでしょう。マグリット、デルヴォー、ダリ、エルンストらシュルレアリズムの代表的作家たちの表現をお楽しみください。



6. イヴ・タンギー 《失われた鐘》 1929 豊田市美術館

第4章 広告—「機能」する構成

本展覧会のテーマは「拡大するシュルレアリズム」。4章からは、オブジェ、写真、絵画といった芸術と呼ばれる領域から、さらに広く目を向けます。デペイズマンやコラージュ、フォトモンタージュなどシュルレアリズムにおいて多用されたテクニックを発揮した、訴求力に富んだ広告に注目します。



7. フリッツ・ピューラー
ポスター「ジオデュの帽子」
1934
宇都宮美術館
※前期展示

第5章 ファッション—欲望の喚起

シュルレアリズムは、モードやファッションと近接する場にありました。

衣服を纏うマネキンや身体への欲望は、シュルレアリストらのインスピレーション源となり、またファッション雑誌やモード写真も積極的にシュルレアリズムの表現を取り入れています。

ファッションデザイナーのエルザ・スキヤパレッリは、ダリらともコラボレーションしながら奇抜なデザインで人を驚かせるドレスや香水瓶、ジュエリーを発表しました。

ファッション界とシュルレアリズムの関係を探ります。



左8：エルザ・スキヤパレッリ、ルシアン・ヌケルマン（制作）
クリップ“サーカスの馬”モチーフ
c.1938
個人蔵

右9：エルザ・スキヤパレッリ
香水瓶「スリーピング」
1938
ボーラ美術館



上10：スタジオ 65
ソファ「ボッカ」
1970/1972
国立国際美術館

下11：エジューン・アジェ
《働く女性の部屋、ベルヴィル通り》
1910
東京都写真美術館
※前期展示